知約

倭書

六十

一

内閣文庫
第
和書
類
号
冊
函
架
一一三五〇
六六
二二
三三

太政官文庫
和書門
一一三五〇
二〇六
一一
六六
獅
函
架
冊

内閣文庫
番號 和 11350
冊數 66 (58)
函號 213 145

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

武家雑事

武家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思案して御くに思ひ為りものとおもふ不時の世乱
なるわれい世人なるを去りて沢我を以て思案かわるる世人
なるものハ如何ハさらとして何なるも思案を強て時なる六
さらなる依て云ふ所なる為りて兵粮なりと思ひて人を信
ぜず我さハ行ふ所なる人の云ふ事を聞ふと強て思
案と世されハ家なる叶ふるもと云ふ所なる行ふ所なる思案て
云ふ為りて隆家ハ思案なる人の拙なる世人思ふなる人と云ふ所
隆家の云用の為なるハ他不人世なる人と思ふ上又ちなる
と思案して云ふ為なる人なる用人なり水戸の大隆家
まハ不相考なる他家玉ハ人なる世なる思案なる当

時くなる思案なる為なる世なるなりて何の造化なるなる云ふ所ハ
隆家の云ふくハ如何ハ信時多なる人と宮人ハ如なる云ふ作我ハ
当世なるなりて信なるなるなるなるなるわれハ信世なるなる隆家の云
我ハ世なるなりて信時なるハ云ふ

大融院家光の時徳川中納言
様と光ふ尼上方の兵と戦ふ時井伊掃部頭
首実検の時掃部頭と戦ひ大阪の兵掃部
刑部なるハ何なの云ハ人なる礼せを強て云ふなれハ大阪の
云ハ人なる云ふなるなるなるなるなる知ら相老今日なの云ふ
くなる云ふなるなる云ふ知ら相老と云ふ知ら相老の云ふ大阪と云て云ふ知ら

[illegible]利や日和の[illegible]敵迫ハ市[illegible]世
まて是國より他[illegible]くしとされた迫ハ 樣子[illegible]
らぬ 一説井伊掃部の説[illegible]方ハ保[illegible]
大坂軍の時[illegible]部[illegible]ハ[illegible]
[illegible]井伊掃部[illegible]ハ鴻[illegible]の士[illegible]
今又[illegible]方ハの[illegible]と墓る士民[illegible]ハ礼の墓と
[illegible]
[illegible]の士民[illegible]
延寶元年 仙洞八十[illegible]

皆やうぬ[illegible]
[illegible]墓[illegible]
秀吉[illegible]日[illegible]人[illegible]人[illegible]小早川隆[illegible]人ハ猫[illegible]
[illegible]一説秀吉日[illegible]人[illegible]
一人ハ[illegible]今[illegible]人[illegible]
秀吉[illegible]中[illegible]農人の[illegible]
[illegible]乐我[illegible]
[illegible]秀[illegible]
心[illegible]秀一[illegible]
[illegible]
義貞[illegible]紀[illegible]士[illegible]中[illegible]自[illegible]

[illegible]の[illegible]出れば[illegible]を[illegible]の用ふる[illegible]法を[illegible]を[illegible]名の
ふ[illegible]と云あり世代[illegible]の命を[illegible]
[illegible]なんとすべし
磯砌帝の時[illegible]
元[illegible]月[illegible]八日[illegible]
此[illegible]帝[illegible]
以[illegible]口[illegible]
[illegible]
[illegible]

義[illegible]自[illegible]源氏以八体[illegible]
[illegible]
力術[illegible]
法也。是一不[illegible]
制[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
義強。
中[illegible]
少[illegible]

[illegible]の地名が黄出明雪[illegible]
約二百石ばかり[illegible]
一若狭国[illegible]より伊勢の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]国の神社[illegible]て岡泰院[illegible]
[illegible]ありまた法花堂国の社[illegible]
[illegible]地蔵[illegible]
[illegible]国の[illegible]
[illegible]国の社の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の神[illegible]て岡泰院[illegible]
[illegible]国の社[illegible]
[illegible]
[illegible]国と[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の富小完戸御ものうつ世ものうつと輝元ものみて秀秋ものあ
さて

五日文禄四年八月隆景ニ京すり籠ものうつ四月十月世ものうつの儀の様
すん博多の松ものうつ四月のごとく仕ものうつ四月十六日隆景
博多ものの茶屋ものうつ山ものうつ

廿日毛利輝元ものうつ前美秀包ニ毛利宗義
芸州ものうつ百姓ものうつ世ものうつ時毛利輝元ものうつ前美秀包ニ毛利宗義
ものうつ世ものうつ人ものうつ世ものうつ先藝州ものうつ世
ものうつ世ものうつ世ものうつ四人ものうつ
上方ものうつ上ものうつ輝元ものうつ
京ものうつ四方ものうつ

人質ものうつ世ものうつ
京ものうつ世ものうつ
ものうつ世ものうつ
ものうつ世ものうつ

八月　江戸より御土舟ニ而ハ御ゝ家康ゝ様ゝ御奥
別棚金一箱ゝ御ゝ献上ゝ被遊ゝ候ゝ任ゝ嫡子ゝ秀忠ゝ
殿ゝ　ゝ御院ゝ様ゝ御ゝ流ゝ加ゝ様ゝ御ゝ家ゝ様ゝ御ゝ者ゝ
の体ゝ也ゝ　ゝ御ゝ諸ゝ和ゝ様ゝ御ゝ供ゝ　ゝ御ゝ供ゝ　ゝ御ゝ人ゝ　ゝ御ゝ知
ゝ場ゝ　ゝ元和七年　ゝ御ゝ門ゝ様ゝ御ゝ知ゝ十ゝ万ゝ石ゝ　ゝ御ゝ下ゝ　ゝ御ゝ家ゝ様ゝ御ゝ上ゝ地ゝ　ゝ御ゝ
毋ゝ様ゝ御ゝ　ゝ御ゝ名ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ浪ゝ人ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ
ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御ゝ　ゝ御

田中兵部大輔義次家臣[illegible]
博多住人[illegible]筑後守[illegible]
[illegible]家絶亡時[illegible]家[illegible]
田中兵部大輔ハ元来[illegible]
石田治部少輔と[illegible]
[illegible]田中と[illegible]
[illegible]義負[illegible]成り[illegible]
[illegible]所ニ思ひ居[illegible]
[illegible]田中ニ[illegible]
[illegible]思ひて[illegible]

[illegible]ニ思[illegible]
[illegible]
[illegible]

主殿の兵のうちびとを切しかども遂に敵きれぬるを主殿は夫より破
備風と形て生年二十歳にて死せしの後は家
川澄殿うつと号せしの国中十九にて澄殿は城にて
の城まもて古千石を領せしかども十九の時に国中にも出る所
家人にて出仕せられしに澄殿の家門に力なきゆへ野
心ありしかども出るを止むを進ぜ澄殿の家を出るを進ぜ澄殿
まもて家人のおもて対決あるべきかの力を捨て他の武者を
らんとせし後のちてまもりて怨るところびをまもて力を尽る四
中氏の方よりは野人にうひなりて出るをもて彼を新
知四国中ふれたる軍勢をそろへ出るあるべきを御ちる知る

士形鶴野陸奥守にて四百石の二百石とる士と指
知の論にて鶴野新兵衛あるべきをもて彼是三年の後迄行
あれて淋く道まで出るかりまもいやちなる城なり　ニ方
ちも国中ら出るの延行三年ちるのよりて二人あるよりて
と元和のまもに国中に筑後の守九に京都よ
行て出仕の後に筑後の守に進ぜられる
会陽に江戸より死去せしの号を出されし説の通ぜあるべき別
他を論ずるとなる藤あるべき国中に陽ちとも

義棲　名ちり
筑後の守に進ぜ其世を松九郎とつよ義生の嘉ちり
元八武四郎八郎　室にて賜ぜ陽八郎八郎　陽八郎
義生のみを嘉世

[illegible]

[illegible]

義稜[illegible]武田氏[illegible]十代の孫武田孫八郎[illegible]孫八郎[illegible]

[illegible]ものこゝろ[illegible]一味せしめ[illegible]信長の[illegible]

けく[illegible]信長[illegible]死[illegible]の後孫八の[illegible]

[illegible]の門[illegible]の[illegible]誕生[illegible]

[illegible]孫八[illegible]の[illegible]近[illegible]

[illegible]切腹[illegible][illegible][illegible]は

[illegible]人[illegible]

[illegible]人[illegible]

[illegible]

[illegible]

秀吉の実父ハ木下彦右衛門と云織田信長の足軽也彦右衛門
秀吉の母ハ尾張の中村の百姓彦右衛門と再縁す秀吉の母と秀吉とハ
別て信長ハ筑阿彌あるて右の通なれとも
紙矢ハ明智光秀にて用ゆる矢なり。（この節征夷のうち佐々成政
ハ他物なれとも世俗やうまとづを
上州中州ハ四羽なり）
まちをまぶよりくるとまちひだのまちを巻て射りなり
此中まていまよりて射ゆへやもすれハ矢あぐる翁の後なと
巻けてハ矢あるて射ける故まちをうぐるまりけて右せ
ハ矢あるなり
伊勢伊賀ハ信長ハ滝川左近将監ハ滝川左近将監ハ初ハ伊賀伊賀守
と云後ハ滝川左近将監ハ伊賀氏と云る後ハ也 略記
氏利を後ハ北条ハ小田原の城主なり北条氏康氏康
信長ハ北条氏ハ武田氏と
右義輝統一の義宣後ハ義秋義昭
也十七年七月十二日辛 信長ハ義昭を
筑前ハ筑紫ハ筑前ハ筑紫ハ筑前ハ筑紫ハ筑前ハ筑紫ハ
四十年 六月十三日辛
前田利家ハ織田信長ハ家臣氏族也日下部氏也
右大臣信長ハ織田信長ハ家臣氏族也日下部氏也
右大臣信長ハ織田信長ハ家臣氏族也日下部氏也
信長ハ一生ハ 家康ハ信長ハ用ゆ

[illegible]人伊豆国へ[illegible]ら[illegible]れ[illegible]当番の[illegible]
[illegible]人供として[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松倉重政ハ肥前ノ国ノ内伊賀ノ国ニ[illegible]

[illegible]ト深奥州岩城ノ配流セラレ時和泉ノ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]

内ヲ添テ二十七万石ノ所ヲ[illegible]

[illegible]利元牧陶全義ヲ諫ル大内義長ヲ国ヲ[illegible]

[illegible]ヲ助ケ[illegible]

[illegible]

[illegible]

永正の比伊藤左馬允日向へ下向せし時宮崎の文明寺
の僧親宣及宮崎の文明寺の住持を討殺して性を再伊藤に任せて
是ゆえ左馬允の家臣の野村掃部頭を領し任ずる所なり
伊藤八郎右衛門尉佐敵世家を崇し文八郎法の却へ入る也
とて是は那珂郡の内四百町加恩して宮崎の武士補親
直と云父の家を召し入れ運と云事知行して当時の名也
後に直の内いさつまの兵を後へ入るゝ也　九州記
籠城士同盟不法郡の神領景八生兼弘井の城を起天正の比秋月
種実の麾下又は兵の城を四位不刑部天補統系八大友に属し
戸次丹後守鑑速元亀二年幸未大友宗麟命して兵後の高わり
籠城を立花の城へ移りて兵を立花と改む
高橋鑑種は大友の郡内小倉の城へ移り刑部少輔にて宗
麟の城を退けられ四郡の郡代小倉の城へ移り刑部少輔にて宗
麟と不和にて元亀元年に筑前を捨て宮崎に籠城
と再興せ法華と改むと年二十三歳也三年の内にて刑部少輔
迄と号す
高橋元種の
相正儀配所にて宮崎に籠城の時事記を正確なりと
なり
西国古家の記は相正儀の部の地の内の所を伝来

紀とも語るべし　見林

永康公のひろ武田家の世伝ちかへ戸と称り毎別人秋山氏第十六
代晴義の高とする天正十年三月十日滅子代家初武田勝頼山と高信
君。屬こ而みなふ業世傳ちかへ家代を継て家冒こ氏称武田
信玄と云子也

梅屋先生墓碑曰用能信瑞新雲。先祖為西山峯。造伊勤路也
従原光國家子孫。佛光國家子孫。号梅屋。称戸男也。号稼北
書家也

今家中所云秀秋。本下肥後守家定ニ為男子ト称姓松平氏
世八年七一家為ト為て卒ニ屋ニ居ニ国ニ蔵る

世間ニハ世ニ有ニ六月十四日小塩の墓ニ参ル年ニ
相ニ成十一代西尾を信世花出ニ成れ信世ニ家ニ国ニ為ニ信
信ニ成新ニ信ニ下世ニ家ニ為ニ相世ニ巻ニ也
其利好家の信ニ為ニ家の二寛政国中ニ用ニ相の土佐法ニ為ニ用
蒙ニ生ニ用ニ村ニ為ニ家の初授家の也信世ニ成ニ為て授中国ニ
知り信ニ為ニ授ニ用ニ為ニ為る
少ニ用ニ隆家の信浦ニ新ニ家播八信後国乃英の家ニ信ニ下ニ乃ニ家
ニ新ニ云
家世ニ家ニ信縁好ニ家の信ニ為ニ加ニ為ニ家ニ用ニ赤用八ニ家ニ為ニ新ニ為ニ為
の信ニ為ニ利神元家ニ信村上好新信用ニ為ニ新ニ為ニ家ニ戸

若年ニ而小姓ちんと云ふ侍人を率て参りて以城内をあけ渡
す人質ニ出を松おの城ハ加賀国紀州根来住人ニ而十成
ちと城内をあけ国をへし書ふとのけ之ニ行すへき由
熟ハ参ふ依之藤列の形ち松おの小勢を為ふとり三津国へ
上り民家ハ焼ふ焼ふとして居れり山内国ち岡の城ニ居
和泉ち国ちより加勢其節城無恐と云へと個ハふ松ふとして国ハ
方一ハ寄て敵を防ふ近ハ室ち迫を起ふて小勢と
いそれて小ふ近ハ家の和国ハ寄れハとて加勢を頼ハ敵付
て近ふ山内国中百姓ハ敵ハ加ふる個ハ去年ハ和国を
敵の様をふてれ打をせ申ふ云ハ八月十八日成刑松おかと
三津国へ敵国ハ敵国ハ敵ハ国寄ふる個ハ敵の為村上
ちつち個せ敵ハ寄て打ハ早く引ん村上ハ紀州根来国近ち和ニ
寄ち打ハ寄ふて寄ち寄ふて藤列
寄ち打ハ国ハ不ハ敵を紀ハ松おの城をせんと云十成寄手
ニ寄ち国ハ寄ハ敵ハ松おの城ハ十成ち切と成ふ云
ニ寄ち国ハ寄ハ敵ハ松おの城ハ十成ち切と成ふ云
ハ寄を寄ふる寄ハ八日寄ハ敵国ハ敵ハ寄ハ敵ハ
寄ハ寄ハ寄ハ四日寄ハ寄ハ国ハ寄ハ十成一方ハ
寄ハ寄ハ国ハ二月上旬ハ十成寄ハ寄ハ三月ハ寄ハ国ハ
寄ハ寄ハ国ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ
寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ寄ハ

主用ヨリ先ニ主ヨリ分ケテ遣ハサレシ流ヲ汲ム八十
二軍ヨリ流ハシ給ヒシ軍勢ヲ召シ集メ利刀ヲ抜キ矢ヲ
矧ノ如ク切ル切ル斬ル斬ル斬テ廻ル所ニ
宮戸ノ岡ニ陣ヲ張ル陣ヲ張ル源義経ノ家人八田の四郎ヲ
ノ家ヲ継ク八田四郎ハ家ヲ継ク平治ノ乱ニ源氏滅ブ時ニ八
ツモ蔵人ノ子ニテ経ヲノ子ニ成ル形ノ如ク屋ヲ子孫八
代ノ後ハ奥州ヨリ宮戸ノ岡ニ陣ヲ張ル形ノ如ク屋ヲ子孫
経ヲ改元保元ノ時ニ甲斐ノ国ヨリ起ル
ノ時ニ元ノ源ヨリ対面ニ成ル元祖大江廣元ハ

形ノ如ク屋ヲ子孫ノ元祖也 形ノ如ク屋ヲ子孫
ヲ成ル元祖也 向後代々ノ系ヲ
ハ系ヲ代々ノ家ヲ子孫ト云ハ向後代々ノ系ヲ
藤ヲ陸奥ノ国ヲ領ス 陸奥ノ国ヲ領ス
姫ヲ妻ヲ娶ル 宮戸ノ岡ニ
家ヲ建ル 陸奥ノ国ヲ領ス
中黒ノ旗ヲ立テ 八幡太郎
伝ヲ受ル 鎌倉ノ
男子ヲ儲ル 次男

[illegible]

伊勢河曲氏を称し其後[illegible]の時河曲四郎[illegible]の一族[illegible]

[illegible]

[illegible]

尾州[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人あり押たて[illegible]おかれ[illegible]
[illegible]四方天[illegible]
上に町[illegible]
一小祠[illegible]
出[illegible]
[illegible]
○[illegible]
山[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]

粽のかしをふんだ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年初頃より事の様（物）に成り行く川
隆宗（隆宗のまちがい）を本の如く結び給ふ
山名の軍をもって国を先陣にして出陣
たりしかの時に隆宗の先陣を
[illegible]
[illegible]
[illegible]

肥前一国を斬ハ切く[illegible]寺山城を[illegible]伝と号して[illegible]
ひなさちらを也[illegible]刑部[illegible]郡の人[illegible]家[illegible]
宗信ハ[illegible]信り[illegible]宗信を[illegible]
[illegible]家の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

翌日已の日の出る秀吉をうめ申度ハお猿
と云ハ家来と父母兄弟秀吉の姉一人あり是
秀次の母なり又織田信長の臣明智光秀
中村の人藤吉郎と云ものなり海内
しら書にありしハ秀吉の母やもめなりしを
めとりて男子一人もうむ是秀吉の
異父同母弟なり男子ハ羽柴小一郎秀長信
吉と名乗ハ云と号して豊臣家の
豊州隠れ八幡の三年あり豊臣氏

玉ふ曲輪院殿と号して東福寺南門院を号
備前の海田和泉守重家庶孫部世ましまの人命を
秀吉公計家来に成られ信長公へ仕え文
の作園備前の長船と云へ園安信の内刀作載さ
せられ
家康公深恩と和ク家来へ召ハ保科
弾正忠下総の国古河一万石領せられ
天正年中播州の別所小三長治ハ信長に属世
しを秀吉方へ引とりて毛利をうたんとの情

州より呼寄せ
給ふ若城を
秀吉の使者より
と詳に説明
を知らせ
を考へ
山陽道の
使者を送る

毛利を
広家
信長
信長
城攻
秀吉
秀吉

くはなるべきもの秀吉の恩義なくして
一味して毛利輝元いまだ行くべき方の
義理なく蒙方なかりしかとも
あるべき様なしと思ひ秀吉を
先賀自報して大勢の士卒を助く義士
ことごとく里民を慰して芸州を
立ち今みあるべき時来りて分あるべし
罪状作り給世のあるべきもの

試みに

宮元氏　浅原賊兵の打　四国の首を細川備中
家臣陣佐野を以て子石ゐる
浅原備中　松倉右馬允　森四郎左衛門　能島
　　　

西国諸家盛衰記凡十七冊秀吉傳

澄信之重攻

一初者大元蒙古日本を攻るの事

一右大臣四方之義義経蒙古を攻る小嶋の

海への時より第七代家綱迄懐抱して政子

嬬孺奴婢を惜り近義を近義強盛の利根の局を

殺害をつかまつるを一作師長卿彩雲を近付て

春衡秀衡の時平泉の外戚を攻る

国立公文書館
National Archives of Japan

大友左近将監殿御出馬之時
一秋月之種之郎党隈弘法三郎
大友殿御
[illegible]
[illegible]
秋月
[illegible]
信ハ之種ノ之[illegible]
一[illegible]
[illegible]
代々墳墓の地なり之[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
威を振し
種
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

所をもつてたちまちに新たに
ちちの家鎌倉殿を攻めをはりぬれば石塔
ちちの家の恩をこそ
ても諸りの石塔秘蔵の書をやきすておこなる
一巻もかりおこなる中に出雲の石塔をおこなる
りの薩州まで神まよりあるめりの石塔既に
四塔既にけて行巻を見て悔ゆる詞
あくうちに心の修行すこおこの数三子相原殿

巻ちちの家鎌倉をつかまつりて
京城の殿をのりの
国をも滅ぼすなり四七年鎌倉の敵
外祖父の法師をちちの宮に
一江上の殿の家経の殿修の法華経
常の四天の長力ふ二尺寸の像を
殿の御所を巡る新
殿の御巻を巡る常の巻
一説巻隆修滅亡十二三年

一[illegible]仙岩ヶ[illegible]に[illegible]を[illegible]
[illegible]中[illegible]家久[illegible]集院[illegible]新納[illegible]
上[illegible]京[illegible][illegible]
三[illegible]世[illegible]

一[illegible]中[illegible]家久[illegible]
[illegible]
必[illegible]

一川上[illegible]京[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひ[illegible]に[illegible]田中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一黒田[illegible]解由[illegible]高[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秀吉の城より好所なれ共に異れてこれ無し書物
時代の時代まで宇佐宮城古来より城を築き
まで高山の城ハ諸国の通ふ所なり東田舎
城なれ共の城まで小門乃所為なれハ城なるも高
なれ共城ハ城なり

宮政文庫

国立公文書館
National Archives of Japan